

平成31年度使用中学校教科用図書
「特別の教科 道徳」の選定に係る答申

秋田市小・中学校教科用図書選定委員会

種目	道徳科
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、8社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

学校図書 光村図書

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書選定委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 各社とも、魅力ある教材を掲載するとともに、道徳的価値について深く考えることができるような発問や学習の進め方を示すなどの工夫が見られる。また、生徒が書き込む別冊ノートを作成している出版社もある。

委員 教材や発問、学習の進め方の掲載については同感である。廣済堂あかつきや日本文教出版の別冊ノートは、教師が評価する際には有効であると思われるが、授業づくりの幅を狭めてしまう可能性がないか。

委員 その可能性はあると考える。授業づくりにおいては、教材の冒頭に示されている主題などの情報や、教材末に示されている発問の内容が大切である。そこで、教材の冒頭と終わりの部分に着目して協議したい。

委員 教材冒頭の情報を抑えている出版社は、学研教育みらい、教育出版、日本教科書、廣済堂あかつきの4社である。一方、学校図書、東京書籍、日本文教出版、光村図書の4社は、内容項目や主題などが示されており、授業の導入で、生徒が何を学ぶのかについて共有できることはよいと考える。

委員 教材の終わりの部分については、各社とも、振り返りの欄を設け、学期末や年度末に、生徒が自分の学びを振り返り、成長を実感することができるよう配慮されている。教育出版と日本文教出版は、保護者の記入欄も設けており、興味深いかどうか。

委員 教師による評価という観点から、生徒が教科書内の振り返り欄に記入した内容をもとに見取っていくことは大切と考えるが、授業を実際に見ていない保護者が感想などを記入することは難しいと考える。

委員 生徒の実態や今日的な教育課題の観点から、いじめや生命の大切さ、情報モラルなどに関する教材の内容や取扱い方は重要ではないか。その点、学研教育みらい、東京書籍、光村図書の3社は、いじめや生命の大切さについて考えさせる教材が豊富にあり、内容も充実している。

委員 学研教育みらいや学校図書、光村図書については、夢や誇り、将来の希望などをほぐくむ教材も多く掲載している点がよい。

委員 同感である。東京書籍、光村図書は、教材そのものに力があると感じる。東京書籍は、生徒に道徳的な判断を求める教材が多いことや、秋田に関する教材を取り上げているところに特徴がある。光村図書は、少女が自らの障害をインターネット上に公開して思いを伝える教材など、魅力的で心に響くものも多い。

委員 学校図書は、例えば「生命尊重」や「家族愛」などについて、読み終わった後に心が温まるような、中学生の心の優しさをはぐくむ教材が多い。同社の「自然教室のできごと」は、他社とは異なり、登場人物が今後を前向きに捉える様子が伝わる結末となっている。

委員 道徳科の授業で重要となる発問の扱い方について協議したい。教師にとっては、学校図書、教育出版、廣済堂あかつき、光村図書のように、教材末に複数の発問例が記載されている方がよいと思うがどうか。

委員 同感である。発問は、教材を深く読み取る上で、また、生徒の考えを広げる上でとても大切であり、生徒が自分自身と向き合うことができるようなものがより望ましいと考える。

委員 光村図書は、「見方を変えて」でも発問が例示され、生徒が自らに問いかけ、考えを深めたり、広げたりすることができるようにするとともに、「つなげよう」では、生徒の主体的な取組を促すような配慮がなされている。また、教材文の次には、教師と生徒が共に考えることができるよう工夫されたコラムが掲載されている。

委員 学校図書は、教材末の「学びに向かうために」と「心の扉」により、生徒にじっくり考えさせるという点が良い。「心の扉」は、ものの見方や考え方を深めるうえで効果的であり、道徳的実践力にもつながる内容となっている。また、同社の発問例は、光村図書と同様、生徒の考えを引き出すとともに、教師と生徒が共に考える工夫がなされているのではないかと考える。

委員 同感である。
総合的に判断して、学校図書、光村図書を推薦したいと考えるがどうか。

委員 同感である。

会長 それでは、選定委員会として、学校図書、光村図書を推薦としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<学校図書>

- ・生徒の考えを引き出し、教師と生徒が共に学び、考えることができるような発問が例示され、「深く考え、語り合う道徳」の授業づくりに適している。
- ・教材文の次に、「心の扉」を設けることにより、ものの見方や考え方を深め、道徳的実践力につながる構成となっている。
- ・「生命尊重」や「家族愛」など、生徒の心の優しさをはぐくむ教材が多い。

<光村図書>

- ・教材末に、生徒が自らに問いかけて考えを深め、広げたり、生徒の主体的な取組を促したりするような発問が例示され、「深く考え、語り合う道徳」の授業づくりに適している。
- ・教材文の次に、人間関係づくりなどに関連したコラムを設ける構成により、教師と生徒が共に考える工夫がなされている。
- ・独自の視点で書かれた魅力的で心に響く教材が多い。